

『「きく」という思いやり』

日野小学校 6年 大西 かこ

私は、ひのっこ宣言にある「きいてみよう自分のきもちと相手のおもい」について考えました。その中で、特に「きく」力があらゆる場面において大切だと思います。なぜなら、人は人とつながりながら生きているからです。

学校でも、いつも誰かと関わりながら生活しています。仲良く過ごせる時もあれば、意見がぶつかり合ってケンカになる時もあります。例えば、クラスで何かを決める時に友達と意見が対立して、なかなかまとまらない場面です。それは、それぞれ自分の意見があって、一人一人が「自分の考えが一番正しい」と思っているから起こるのではないかでしょうか。自分が正しくて、相手が間違っていると決めつけていては、いつまでたっても話が前に進みません。まずは、相手の話に耳をかたむけ、少しでも理解しようと努力することが大切です。相手がなぜそう思ったのか想像し、共感できるところを探してみると、今まで全く違うと思っていた意見も、歩み寄れる部分があるかもしれません。おたがい自分の意見を言いつつも、認め合うことができればより良い結果が生まれるでしょう。私もディベートの授業で、相手を尊重する大切さを学びました。自分の意見ばかり言い合うのではなく、常に広い心を持って、相手の意見を「きく」ことが重要だと感じました。

相手の話を「きく」には、思いやりが欠かせません。この思いやりの心を持つには、相手の気持ちを想像したり、その場の状況がどのように変わっていくかを予想したりする力が必要です。私は思いやりの力を養うために、読書がいいと思います。本を読むことで、様々な登場人物の気持ちや情景を想像し、新しいものの見方や考え方を学ぶことができるからです。いろいろな考え方を知っていれば、他の人の意見にも共感できることが増えていくと思います。みんなが思いやりを心の中にたくさん持てば、もっと仲良く過ごせるはずです。目には見えない思いやりが心をあたたかくし、そしてまた、他の誰かの心をあたたかくできれば、平和な世界が訪れるかもしれません。私も、自分と違う意見に出会った時は頭ごなしに否定せず、相手の視点に立って考えたいと思います。これからも「きく」力を大切に、自分の周りからあたたかい世界を広げていきたいです。